

“自分で作ったものに自分で値段をつける農業”の実現

有限会社 鶴岡協同ファーム
代表取締役 五十嵐一雄（鶴岡市）

1 受賞者の概要

法人設立：平成15年3月

経営規模：

- ・水 稲：29ha
(自社産米は全量精米販売)
- ・軟白ねぎ：0.3ha
(水稻育苗ハウス後利用9棟)
- ・他に米の仕入販売、作業受託など



2 特色ある活動

(1) 全量精米・直接販売

自社生産米は全量精米し、県内外に直接販売（老人ホームやふるさと納税返礼品、個人・業務用向けなど、多様な販売チャネルを確保）し、付加価値の高い経営を実現している。

(2) 軟白ねぎの大規模経営

正規職員として就農した長男の部門として、平成27年から育苗ハウスを利用した軟白ねぎの生産に着手した。JA鶴岡管内で最も栽培面積が大きい軟白ねぎ生産者となっている。

(3) 障がい者雇用の実践

平成18年より市内在住の2名の障がい者を雇用（年60日程度）し、いち早く農福連携を実践している。

(4) 多角化経営の実践

田植3ha、刈取3ha、ドローン防除延べ260ha（130ha×2回）など、地域の農作業を受託し、人・農地プランの中心経営体として、地域農業の維持発展に貢献している。

また、平成26年より市から除雪作業を受託しており、冬期間の農外事業として実施している。

3 今後の発展方向

黄金地区では、農業競争力強化基盤整備事業（水利施設等保全高度化事業）の令和2年度採択に向けて営農計画の策定に取り組んでいる。

基盤整備終了後は、人・農地プランの中心経営体として水田を集積し、水田の自動給排水装置やドローン、GPS付農業機械などを活用しながら、労働力不足に対応した農作業の効率化に取り組み、更なる規模拡大を図る。

将来的には、現在の米の仕入れ販売を自社生産に切り替え、乾燥調製施設の能力いっぱいの40ha規模の米を自社生産したい考えである。